

| | | | |
|-----------|------------------|------|----|
| 講義名 | 対)レクリエーションスポーツ演習 | | |
| 担当教員 | 水流 真二 | | |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 木曜日 3時限 | 授業形態 | 演習 |
| 履修開始年次 | 2年生 | 単位数 | 2 |
| 備考 | | | |

主題と概要

効率重視のステマティックな社会構造が人間関係を生み出していると指摘されてから久しい。今後、さらに進展するであろう情報化やグローバル化の流れの中で、人間性の回復に向けた取り組みとしてレクリエーション運動の見直しも問われている。この授業ではさまざまな種類のコミュニケーション・ワークやニュー・スポーツを体験することにより、生活の利便性を追求するがゆえに、知らず知らずのうちに身体活動範囲が制限されている現状に気づき、自らの身体メカニズムの理解を通して、健康で文化的な生活の足かりを確かめるものにしていく。

到達目標

この科目は、「対面型」で実施する。到達目標の達成のためには、授業形態や扱う教材等の関係上、対面型での授業が望ましいためである。「オンデマンド型」ではないため、時間割通りの時間帯に指定された教室で授業に参加すること。なお、新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった場合は、個別に課題字修などを指示する。

1. 対象者と気持ちよく過ごす方法を学ぶ。ホスピタリティ学習をマインドが身につく。
2. 対象者同士で助け合う良好な集団作りの方法としてアイスブレイキングの技法が身につく。
3. 心の元気づくりの手段として行うレクリエーション活動が習得できる。
4. 「健康」獲得の方法を把握できるようになる。
5. 歴史やルール、基礎技術等を理解し、生涯にわたるスポーツ実践の礎とすることができるようになる。

提出課題

・スポーツが健康増進に果たす役割に関するレポート（期末期）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

課題・レポート等は必要に応じて個別に返却し、解説する。

評価の基準

* 授業実施時間数の4回以上欠席した者は単位を認定しない。
 * 授業中の評価：授業に取り組み態度など・・・80%
 * 期末期の評価：レポート課題・・・20%

履修にあたっての注意・助言他

・授業には、運動に適した服装およびシューズを着用すること。
 ・積極的に楽しみ、けじめある態度で授業に参加すること。
 ・天候によって授業計画の変更がある。
 ・授業計画は学等内容をより充実させるために、受講者の技術、習得度に応じて変更することがある。
 ・この科目は、「レクリエーション・インストラクター」資格関連科目である。

| | | | | | |
|---------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | | | | | |
| .使用しない。 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

プリント資料及び参考文献

「プリント資料」
 必要に応じて配布する。
 参考文献
 ・清水良隆ほか、「ニュー・スポーツ百科」大修館書店（1995年）
 ・三浦一朗、「アイスブレイキングゲーム集」（公財）日本レクリエーション協会（2002年）
 ・水flow真二、「遊びのタネ」社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会（2006年）

授業計画

1. イントロダクション（信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ（信頼を得るための方法）
2. 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ（私とあなたのワーク）
3. 良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング（提供者と対象者のワーク）
4. 良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング（対象者同士のワーク）
5. 良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング（チーム形成のワーク）
6. ディスクゴルフ（フライングディスクの原理の理解）
7. ディスクゴルフ（ディスクゴルフの実践）
8. アルティメット（アルティメットのルールの理解）
9. アルティメット（アルティメットの実践）
10. グラウンドゴルフ（グラウンドゴルフの発祥と普及の展開の理解）
11. グラウンドゴルフ（グラウンドゴルフの実践）
12. ベタンク（ベタンクの発祥と関連種目の理解）
13. ベタンク（ベタンクの実践）
14. モチル・プログラムの習得（グループプログラムの体験）
15. モチル・プログラムの習得（グループプログラムの振り返り）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

| | |
|--------------------------------------|--|
| ア：PBL（課題解決型学習） | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| ウ：ディスカッション、ディベート | エ：グループワーク |
| オ：プレゼンテーション | カ：実習、フィールドワーク |
| キ：その他（A～L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） | |

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業の内容について、書籍やインターネット等に基づいて、事前に予習ならびに終了後の復習を十分に行うこと。（1時間程度）
 レクリエーションスポーツの実践指導に向けてストレッチングやコンディショニングを調整するための身体活動を行うこと。（3時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本演習は、健康分野に関する基礎知識の習得を到達目標としており、ディプロマポリシーの一部に貢献する科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
 教育現場や福祉現場においてレクリエーション指導経験のある教員が、ホスピタリティ・トレーニングやアイスブレイキングの技法を用いたコミュニケーション・ワークについて事例を交えて講義する。

備考

スポーツ健康コース所属学生履修推奨科目
 レクリエーション・インストラクター関連科目